

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400308		
法人名	社会福祉法人 尚徳会		
事業所名	グループホームとよおかの里		
所在地	豊岡市香住1272番地		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosvoCd=2874400308-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成28年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近隣には小学校や公民館もあり、自然豊かな環境にも恵まれた場所にある。窓からは四季折々の景色が楽しめ、空を見ればコウノトリが飛ぶ姿も見られる。地域の行事参加や季節ごとの外出も心掛けている。
 ・グループホーム理念である「笑顔で楽しく」をモットーに、利用者に寄り添い支援している。
 ・家族会や行事を開催して家族面会の機会を増やしたり、報告・連絡・相談を行い、ご家族との信頼関係の構築に努めている。こまめにアルバムを整理し、面会時にアルバムを見ながら報告を行っている。
 ・特養・デイサービスが併設されており、行事参加や機械浴の使用も適っている。また、機能低下しても特養への入所も検討しやすく、ご家族は安心されている。
 ・研修や委員会、行事等も施設合同なので、利用者にとっては交流の場が増え、職員にとっては視野が広がる機会となっている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の庭にコウノトリが訪れるなど、広い居間の大きな窓から見える自然豊かな景色が事業所と一体となっている。四季折々のお花見や地域行事など外出の機会を多く持ち、季節感を体感出来るように支援が行われている。事業所の理念である『笑顔で楽しく』が職員全体で実践されている。利用者一人一人のアルバム作成や、家族とともに行うバーベキューや外出など、生活を楽しむ線に取り組まれている。利用者、家族、地域の人々との良い信頼関係が構築され、一人ひとりの生活ペースを大切に作る雰囲気が出た。更に地域密着型サービスの意義を踏まえた理念・方針を検討され、地域へ認知症の理解を広げる取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・グループホームの理念を掲げ、職員で共有している。職員育成の際にも、困ったときには理念を思い出すように指導している。また、職員評価事項の一つに掲げている。今年度はグループホームに関する勉強会にも力を入れた。	事業所の理念はユニット会議で決めた、「笑顔で楽しく」として、食堂に掲示されていた。全職員で、日常のサービス提供時に迷った時など、この理念に立ち返り考えている。職員全員に周知されており、覚えやすく、日々の業務にも活かされている。さらには、地域密着型サービスの意義をふまえた内容が、理念・方針に明文化されていることが望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報や地域のチラシを見て、イベントに参加している。近隣の小学校や幼稚園との交流もあり、運動会やマラソン大会の応援にも参加させて頂いた。	地元の幼稚園や小学校の行事等で地域の子供たちとの交流を実施している。公民館で行われている、ふれあい喫茶にも利用者と職員で参加している。また、事業所で飼っている犬の散歩では、利用者と共に近くを歩く際に、近所の方々の会話が日常的にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学には気軽に応じ、いつでもグループホーム内を開放している。地域密着の集まりでは、若年性認知症の入居者について発表を行った。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族と一緒に参加できる行事を計画し、出来るだけ顔なじみになれるようにと考えて開催している。	運営推進会議は、地元の民生委員や小学校の校長先生をはじめ、公民館の館長、第三者委員、利用者、家族、包括支援センター等からの参加を得て開催されている。会議では、利用者の暮らしの様子や行事についてのお知らせをしており、家族会では、利用者と共ににぎり寿司、流しそうめん、おはぎ、バーベキューなどを一緒に楽しんでいる。その取り組みは、日常的な利用者の暮らしに役立つ畑の運営などにも大きな力となり、職員の資質向上にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会に出席し、他事業所との連絡を密にとるようにしている。また、研修会には職員も参加させている。利用者の困難事例では相談して助言して頂いている。	利用が困難になった利用者について市の担当者に相談し解決した事例などがあり、日常的な協力関係が築かれている。また、定期的に実施されている事業者連絡会に、職員が出席して、意見交換や研修に参加し、その内容は、持ち帰りユニット会議等で伝達している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会の中で事故報告書やヒヤリハットを義務付けている。また、年間の研修計画の中に身体拘束についての研修があり、周知している。	法人が運営するリスク委員会に所属している事業所職員が、毎年実施される研修に出席し、事業所内にも伝達している。委員会等で行われた研修内容については、事業所にて全職員に伝える場を設け、周知している。研修記録や出席者の確認等、記録の充実が望まれる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画の中に虐待防止についての研修があり、周知している。参加できない職員についてはユニット会議等で伝達している。	高齢者虐待の防止について、管理者はじめ全職員は理解をしており、ユニット会議においても話をしている。研修記録や出席者の確認等記録の充実が望まれる。年間の研修計画にもこの内容を含めて実施されることが望ましい。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者もいる為、ユニット会議等で制度の理解を深めている。	権利擁護、成年後見制度等についてのパンフレットを見やすいところに置いており、職員への説明も行って、理解を深める取組みを12月のユニット会議で実施した。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	待機者の面接から管理者とリーダーで訪問して状態把握を行っている。契約・解約・改定時には、利用者や家族の不安を除去できるよう、丁寧に説明するように努めている。	契約は、管理者とリーダーが同席して行っている。本人ご家族も同席の上、内容の説明を事業所に来ていただいて行っている。不明な点や後日わからないことなど、何度でも説明をするようにしている。それまでに、自宅等へ伺い生活の様子など、十分に話を聞いて不安、不明なことがないようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や行事を開催して施設に足が向くように努めている。面会時には積極的に利用者の状態報告を行い、管理者不在でも介護職員が説明できるように指導している。また、毎月ケアプランのモニタリングを行い、本人・家人の意向が反映できるように努めている。	家族会の開催により、家族との出会いや会話の機会が多くある。管理者はじめ職員は、皆さんと話がしやすい環境づくりにも力を入れており、運営に関しても日頃からコミュニケーションをとり、意見を伝えやすいようにしている。家族会では、運営についての意見はでないが、その他の話をされている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議や個別面談で職員の意見を聞く機会を設けている。その他にも意見や提案は大歓迎であり、何事にもチャレンジして欲しいと指導している。	管理者は、定期的に面談を実施しており、アンケートもとって、集計し公開している。職員からの相談も日頃から受けやすいようにしており、日々の利用者ケアについても職員のアイディアも尊重して業務に反映されるようにしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に一回、施設長と職員の面談の場を設けている。問題があれば社労士に相談して、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人の時はエルダー制度を設け、一年かけて成長を見守っている。地域密着事業者での研修や長寿の郷派遣研修、施設内外等の研修にも参加できる機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の連絡協議会で同業者と交流する機会がある。昨年に続き今年度も役員をしている為、特に交流する機会が多く、勉強会の活動も行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>必ず事前面接を行い、不安や要望をうかがうようにしている。入所後も関わりを密にし、安心して暮らせるための関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接時に家人の意向をうかがっている。入所後も安心できるよう状態報告に努めている。行事や家族会の参加を呼びかけ信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所申込みの面談時からグループホーム入所が適切なのか、併設の特養が適切なのか情報収集に努め判断している。事前面接時にも担当ケアマネジャーから情報収集を行い、見極めに努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の思いに寄り添い、共有できるように支援している。</p>		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族会参加を呼びかけ、面会し易い環境作りに努めている。面会時にはご家族がゆっくり過ごせるように配慮し、ご家族からの情報収集や状態報告を行い、利用者の現状を共有している。ご家族と入居者との外出支援も行っている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特養入所中の親戚や知人に会いに行ったり、グループホームに来ていただいたりして関係を継続させている。自宅周辺のドライブ外出や自宅外出の支援は本人家人も喜ばれている。地域の秋祭りには神輿が施設に来てくれ、出石の秋祭り際には外出支援も行った。	懐かしい自宅の近くまでドライブしたり、お墓参りでのトイレ対応に同行したり、以前の生活の場に行きたいとの希望があれば、できるだけ対応している。家族やお孫さんなど来客は大歓迎で、家族会等でも交流が楽しく行えるよう工夫している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうな利用者に対しては、職員が間に入りコミュニケーションを図っている。コミュニケーションが困難な利用者には、席に配慮して皆の輪の中で過ごせるように支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが死亡か特養入所での退所となる。併設の特養入所になっても面会に行ったり、グループホームに遊びに来て交流が保持できている。面会時や合同行事の際、ご家族に出会った際には声を掛けさせて頂き、困ったことは無いかな尋ねフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や計画作成担当者、担当職員が中心となり本人の思いに寄り添えるよう聞き取りを行い、ケース記録や連絡帳で周知している。困難な場合はユニット会議で相談し、本人本位のケアが適うように検討している。	理念にもあるように、職員がまず楽しく笑顔で対応できることもこころがけているが、更に、相手の気持になって考えたり行動するように指導している。利用者の行動について、なぜこうされているのか、について深く考えて、行動対応するようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家人からできるだけ詳しく生活歴や暮らし方を収集し、共有している。入所以降も新情報の把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前の様子、午後の様子、夜間の様子、受診、面会、外出等とパソコン入力でのケース記録や連絡帳で現状の把握を行っている。特変時には赤字で入力する為、把握しやすい。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や行事開催時にうかがった家人からの意向はケース記録に残している。特に状態悪化時には終末期の意向に変わりはなく確認している。月に一回のモニタリングを行い、半年ごとの介護計画書の見直しに活用している。介護計画書作成時にはカンファレンスを開催している。	毎月のモニタリングでは、管理者、リーダーをはじめ、担当の職員、看護師、栄養士等と、本人、家族、その他関係者の意見を集約し、アイデアを出し合い、本人の意向に沿いながら、楽しく暮らしてもらえるように計画を作成している。家族からも意向、希望等を聞いて反映している。利用者の体調や状態が変化した場合には、半年ごとの見直しを待たずに内容の変更にも対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録や連絡帳で状態把握し、職員間で共有しながらモニタリングに反映し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事参加の支援や受診対応、その他にも本人家人の希望や職員の意見を聞きながら、柔軟な支援をしたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の踊りや歌のボランティア訪問があり楽しめている。また、地域で開催するイベントにも参加したり、小学校や幼稚園の訪問もある。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に受診の意向をうかがい、本人家人の希望に沿うようにしている。殆どの利用者は、近隣のかかりつけ医に定期受診の支援を行い、家人には受診報告を行っている。かかりつけ医との関係も良好で、急変時には往診を受けたり、専門医への紹介もして頂いている。	入所されるときに、希望を伺い、それに従って対応している。以前から通っているかかりつけ医を利用される方もある。受診は家族に頼むが、対応が難しい場合は、同行したり、支援をおこなっている。また、不安のある家族の場合、日ごろの生活の様子などを伝えるためにも同行させていただく場合がある。緊急時の対応のため、近隣の医療機関との連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務であるが、日中は常時看護師がおり、困った事は相談できており指示も得ている。夜間もオンコール体制をとっている。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を提供している。入院中には面会に行き、家族との連携も図っている。退院前のカンファレンスがあれば参加し、退院後のケアにつなげている。	入退院があった場合には、面会にもうかがい、必要に応じて、情報の提供や連携をとる場合もある。退院がきまれば、退院後の具体的な暮らしについて、関係者と共に相談し、家族にも同意を得て対応している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、施設で出来る事出来ない事を本人家人に説明し、意向を伺っている。その後も身体レベルの変化に合わせ、その都度意向に変化は無いか尋ねるように努めている。実際に看取りの支援も行っている。	入所時に、重度化した時、終末期についての話はするようにしており、実際に重度化した場合には、本人家族、身元引受人等の思いや希望を十分聞いて、かかりつけ医とも連携を取り職員とも話をしながら、その内容を共有し、連携を取りケアに活かしている。	管理者は、現在重度化した場合の事業所としての指針を作成中とのことで、今後の取り組みに期待している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止研修に参加している。緊急時対応マニュアルがあり、目につく所に置いている。事故発生時には報告書を作成し、職員間での共有を図り事故予防につなげている。	/	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、法人合同で年に2回、日中と夜間想定での避難訓練や消火器の使い方の訓練を実施し、グループホーム単独での避難訓練も実施している。	火災を想定しての避難訓練は年2回実施されている。事業所独自としても訓練を実施していて、災害についての意識も職員と共に重要であると認識している。日中と夜間想定で実施されているが、災害対策については、確認できなかった。	火災だけでなく、あらゆる災害を想定して準備や訓練を行うことが求められており、災害を想定しての訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても常に敬う気持ちで接するように指導している。今年度は月に一回勉強会も開催し、職員のレベルアップに努めた。	認知症及び接遇の勉強会をとおして、職員は利用者対応について、言葉かけや態度にも十分気を付けるように指導している。一人ひとりの尊厳やプライバシーの確保についても、排泄介助や入浴介助など、配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何気ない会話の中から、本人の思いが引き出せるように努めている。入浴時や買い物時は利用者やマンツーマンで関われる為、良い機会ととらえている。買い物時も本人の希望に沿いながら、好きな物を選んでもらっている。	/	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとその人のペースで過ごせるように支援している。受診等で職員が不足した際は職員のペースになりがちである為、気を付けるように指導している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。口紅やマニキュアを塗って楽しむこともある。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理やテーブル拭きを手伝ってもらっている。季節の食材を家人から頂き、一緒にメニューを考える事もある。食欲のない利用者には、特別にソーメンやうどんを提供している。食べ易い様にレベルに合わせて、食事形態も変えている。	毎日の食事の献立は、職員が利用者の声を聞きながら作成しており、買い物も利用者と一緒に近くの店へ買い物に行く。最近是一緒に買い物に行ける利用者が減ったが、畑の野菜を収穫したり、家族からの差し入れの野菜を使ったりして、調理している。イモの皮むきやゴマすりなどできることは利用者にも手伝ってもらう。料理の方法などについて教えてもらうこともある。献立については、栄養士にチェックしてもらい、職員も同じものを食べている。行事の際には、食費をやりくりしてお寿司をしたり、バーベキューをしたりして、家族ともども楽しい時間になっている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは一週間ごとに管理栄養士の確認を得ている。その日の状態に合わせて代替えや栄養補助食品も提供している。水分摂取量についてはチェック表で把握し、水分摂取の確保に努めている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。月に一回、歯科医の往診があり、困った事があれば診て頂いている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、オムツに頼らずトイレ誘導を行っている。夜間もポータブルトイレを設置し、オムツ使用にならないように努めている。専門業者による排泄研修もあり、一人ひとりに合った排泄用品の見直しもしている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、全員トイレでの排泄支援を行っている。排泄用品の見直しを行いオムツの使用を少なくし、夜間もポータブルを設置するなど自立に向けた排泄支援が行われている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき、個々の排泄状態の把握に努めている。水分をこまめに勧めたり、食事には海藻類やキノコ類、乳製品、食物繊維の多い物を提供できるように努めている。また、毎日のラジオ体操やレクリエーション、散歩に誘って身体を動かし、便秘予防に努めている。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援以外にも希望に応じて支援している。グループホームには個浴しかないが、扉を隔てて近くにデイサービスの浴室があり、寝台浴や座浴も状態に合わせて使用出来ている。体調不良時には清拭・足浴も行っている。入浴拒否があれば、無理強いする事無く時間を空けたり、日にちを変更することもある。入浴拒否が強い時は家人の協力を得ている。ゆず湯・しょうぶ湯・スキナペープ等で入浴を楽しんでもらい、温泉に行くこともある。	週に2回の入浴を基本として、希望に応じて対応している。入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯などで楽しんでもらえるように工夫している。また温泉へ行くなど希望に応じて支援している。また勉強会で、利用者一人ひとりの入浴方法について、意見や提案、質問を出し合い、よりよい入浴支援を職員間で統一している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせて休息がとれるようにしたり、使い慣れた毛布を持参して頂き、室温調整にも配慮して安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書をファイルし、いつでも目につく所に置いている。薬の内容の変化や状態の変化があれば申し送りノートや朝礼簿に記入し、職員間で共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に伺った生活歴やその後知り得た情報を活用し、その方に合った楽しみ事の支援が出来るように努めている。好き嫌いがあっても外食なら食べたり、家人と一緒に食べたり出来る事から、気分転換も大切ととらえている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が利用者の希望を伺い、希望に沿った外出の支援を行っている。行事担当職員は、季節に合わせた外出の計画を立て実行している。全員参加が出来るように努めている。天気の良い日には、施設周辺を散歩している。犬の散歩をしながら地域の方と会話する事もある。	外出には運転手を配置し、季節の花見や、コウノトリ公園、食事や買い物に出かけている。また日常的に犬と一緒に散歩に近くの神社などへ出かけたり、喫茶店へコーヒーを飲んだり、個別で行きたいところは家族の協力を得ている。外出する機会は多く、家族と一緒に全体で出かける機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理であるが、外出時には本人が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や不穏時には自由に電話で話せるように支援している。また、年賀状・暑中見舞い・お礼の手紙等を送っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の思い出の写真を壁に貼る事で利用者やご家族から喜ばれている。窓も広く季節を感じやすい。季節の草花や果物を飾り、居心地良く過ごせるように努めている。共用スペースが広く畳台やソファを置いている。	広く長い居間の壁一面に、一年の生活の思い出や行事での楽しい様子の写真が飾られ、利用者との話題を提供されている。畳のスペースやソファ等で、それぞれ中の良い人と団らんされていた。季節の飾りつけや果物が置かれたり、大きな掃き出し窓からは、移り行く季節が感じられる。窓から見える地域の説明を利用者がされていました。ゆったりとした落ち着いた生活空間が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が広く、犬の相手をしたり、窓から外を眺めたりと自由に過ごせている。ソファが好きな方や、フロアを行ったり来たりされる方、台所で調理の手伝いをして過ごす方等、自由に過ごせている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた物を持ってこられ、出来るだけ自宅に近い環境作りに努めている。壁には家族の写真を貼って本人が安心して居心地良く過ごせるように配慮している。	使い慣れた毛布やタンス、椅子、机を持ってこられ、家族の写真やカレンダーが飾られ、一人ひとりの個性やこれまでの生活環境を配慮した居室づくりに努められている。落ち着いた方には、状態を見ながら、少しずつ居心地の良い居室環境を整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサーマットや介助バー、ポータブルトイレを使用して自立に向けた支援を行っている。グループホーム内は段差も無く、安全に過ごせるように配慮している。		